

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	地理歴史	科 目	世界史 B	学 年	3	類 型	I・II 類型
単位数	3 単位	教科書	詳説世界史		出版社	山川出版	
副教材	・最新世界史図表(第一学習社)						

学習の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。
授業の概要	世界の歴史の大きな枠組みと展開を、政治・経済・社会・文化などの関連や地理的条件や日本の歴史との関わりを考えながら総合的に考察することを通して、世界の歴史への理解を深めるために系統的に学習します。

	学期	単 元	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年 間 学 習 計 画	1 学 期	第9章 近代ヨーロッパの拡大	1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス・宗教改革 3 主権国家体制の成立	○		○		
		第10章 近代国家の成立	1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀のヨーロッパ文化	○		○	○	
		第11章 欧米における近代社会の成長	1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン	○	○		○	
	2 学 期	第12章 欧米における近代国家の発展	1 ウィーン体制 2 ヨーロッパの再編 3 アメリカ合衆国の発展	○		○		
		第13章 アジア諸地域の動揺	1 オスマン帝国支配の動揺とアラブの目覚め 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動	○			○	
		第14章 帝国主義とアジアの民族運動	1 世界分割と列強対立 2 アジア諸国の改革と民族運動		○	○		
		第15章 二つの世界大戦	1 第一次世界大戦とロシア革命 2 アジア・アフリカ地域の民族運動 3 第二次世界大戦		○	○	○	
		第16章 現代の世界	1 冷戦と第三世界の自立 2 現代の世界	○	○			
		問題演習	センター試験対策、分野別総合問題演習					
	3 学 期							

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①	②	③	④
世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法			
学習状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用の技能・表現」「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、「出席状況」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物（レポートやノート）」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	地理歴史	科 目	世界史探究	学 年	3	類 型	I・II類型
単位数	2単位	教科書	大洲高等学校「世界史探究ワークブック」	出版社	大洲高等学校地歴・公民科		
副教材							

学習の目標	東南アジアやイスラーム世界などのアジアの地域史や、現代史を深く掘り下げ、探究することにより、歴史的思考力を培い、多角的な視点や考察力を身につける。
授業の概要	世界史を学習する上で我々になじみのない地域である東南アジアやイスラーム地域の歴史について、深く探究することによって多角的な視点や考察力を身に付けることを目指します。また、我が国との関連を強く意識して現代史を探究することによって現代の諸課題について考察します。

	学 期	単 元	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年 間 学 習 計 画	1 学 期	第1章 東南アジア史 1 東南アジアの地理的特徴と歴史の展開	東南アジアの地理的特徴を把握させることによって、複雑な東南アジア史の展開を理解させる。	◎		○		
		2 近現代東南アジア史	東南アジアの植民地化の過程と独立運動を理解させ、現代の東南アジアがどのように成立したかを考察させる。		○		◎	
		第2章 イスラーム史 1 イスラームの誕生	イスラームの誕生について、西アジアの地理的特徴の中で把握させる。		◎		○	
		2 イスラームの発展	イスラームのネットワークや文明が世界に与えた影響に注目し、イスラームの拡大を理解させる。	◎			○	
		3 近現代イスラーム史	西ヨーロッパからの見方やイスラームに対する偏見を取り除くことを目標に、近現代イスラームの挑戦を概観する。		○	◎		
	2 学 期	第3章 1 侵略される中国と民族運動	中国近現代史を概観し、なぜ政治的にも経済的にも強大であった中国が衰退し、列強の侵略にあったのかを考える。		○		○	
		2 現代の中国	中国の民族運動や現代史を取り上げ、どのように経済大国となっていったかを理解する。	◎		○		
		第4章 世界大戦と現代の世界 1 二つの世界大戦	視聴覚教材を利用することによって、20世紀以降の歴史の流れを多角的な視点で理解し、どうしてどの世界大戦が起こったのか、どうすれば平和が保たれていくのかを考える。			◎	○	
	3 学 期	2 現代の世界	現在の世界がどのようにして成立したのかを概観し、グローバル社会を生きる人間としての資質を養う。	○		◎		

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①	②	③	④
アジア史・現代史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	アジア史・現代史を中心とした世界史の探究から課題を見だし、文化の多様性と現代世界の特質を世界史的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	アジア史・現代史を中心とした世界史の探究についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、課題を探索し考察した過程や結果を適切に表現する。	アジア史・現代史を中心とした世界史の探究の中でより多角的な視点に基づいて、我が国の歴史と関連付けながら深く理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法			
学習状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用の技能・表現」「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、「出席状況」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物（レポートやノート）」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	地理歴史	科 目	日本史 B	学 年	3	類型	I・II 類型
単位数	3 単位	教科書	詳説日本史	出版社	山川出版		
副教材	・新詳日本史(浜島書店)						

学習の目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。
授業の概要	日本史の流れを、政治・経済・社会・文化などの関連や世界史との関わりを考えながら総合的に考察することを通して、日本の歴史への理解を深めるために系統的に学習する科目です。

	学 期	単 元	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年 間 学 習 計 画	1 学 期	歴史へのアプローチ「歴史の説明」 第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺 第9章 近代国家の成立	1. 幕政の安定 2. 経済の発展 3. 元禄文化 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化 1. 開国と幕末の動乱 2. 明治維新と富国強兵 3. 立憲国家の成立と日清戦争 4. 日露戦争と国際関係	○	○	○		
	2 学 期	第10章 二つの世界大戦とアジア 第11章 占領下の日本 第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本 歴史へのアプローチ「歴史の論述」	5. 近代産業の発展 6. 近代文化の発達 1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民生活の変容と大衆文化 4. 恐慌の時代 5. 軍部の台頭 6. 第二次世界大戦 1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講和 1. 55年体制 2. 経済復興から高度成長へ 1. 経済大国への道 2. 冷戦終結と日本社会の動揺	○	○	○		
	3 学 期	問題演習	センター試験対策、分野別総合問題演習					

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①	②	③	④
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、国際社会に主体的生き国家・社会を成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色について認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法			
学習状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用 of 技能」「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、「出席状況」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物（レポートやノート）」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	地理歴史	科 目	日本史探究	学 年	3	類型	I・II 類型
単位数	2 単位	教科書	大洲高校「日本史史料集」		出版社	大洲高等学校地歴・公民科	
副教材							

学習の目標	日本歴史上において、政治的・経済的・文化的な転機となった出来事を史料を通して認識させ、事象の理解をより深めさせる。
授業の概要	日本史の流れを、政治・経済・社会・文化などの関連や世界史との関わりを考えながら総合的に考察することを通して、日本の歴史への理解を深めるために系統的に学習する科目です。

	学 期	単 元	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年 間 学 習 計 画	1 学 期	1 原始・古代 2 中世	1 日本文化のあけぼの 2 律令国家の形成 3 律令体制の崩壊 1 武家政権の成立 2 武家社会の成長	○	○	○		
	2 学 期	3 近世 4 近代・現代	1 幕藩体制の確立 2 幕藩体制の展開 3 幕藩体制の動揺 1 近代国家の成立 2 近代国家とアジア 3 現代の日本	○	○	○		
	3 学 期	問題演習	文書史料問題演習				○	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①	②	③	④
我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に意欲的に史料を読み、国際社会に主体的生き国家・社会を成する日本国民としての責任を果たそうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し我が国の文化と伝統の特色について認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	我が国の歴史の展開に関する文書資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取る。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法			
学習状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用 of 技能」「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、「出席状況」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物（レポートやノート）」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	地理歴史	科 目	地理 B	学 年	3	類 型	I・II・III類型
単位数	3 単位	教科書	新詳地理 B 初訂版		出版社	帝国書院	
副教材	・新地理要点ノート（啓隆社） ・新詳地理資料コンプリート（帝国書院）						

学習の目標	・現代社会の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代社会の地理的認識を養う。 ・地理学習を通じて、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
授業の概要	教科書・要点ノートに沿って授業を進めていきます。地理の基本・基礎を押さえて、応用事項も授業では指摘して学習を進めます。地名が出てきたら必ず地図帳で位置を確認します。資料集では関連事項の写真やグラフを確認して学習を進めていきます。

	学 期	単 元	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年 間	1 学 期	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 2章 資源と産業 第3次産業 交通・通信 貿易・経済圏 3章 人口、村落・都市 4章 生活文化、民族・宗教	・世界の商業・観光・交通・情報通信を取り上げて、それぞれの特色と動向、形成要因に関して考 察し、基礎的・基本的知識を習得する。 ・世界の人口分布、人口増加・人口構成に関する 動向を取り上げ、形成要因に関して考察する。村 落・都市に関する基礎的・基本的知識を習得する。 ・世界の衣食住を取り上げ、それらの分布と特色 を理解し、地域性との関連を考察する。民族・宗 教・国家の関連を理解し、基礎的・基本的知識を 習得する。	○	○		○	
	2 学 期	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 東アジア 東南アジア 南アジア 西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南のアフリカ ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア 3章 現代世界と日本 分野別総合問題演習	・現代世界が自然・政治・経済・文化などの指標によって様々な地域に区分できることを理解する。 ・世界の諸地域の事例を通じて、様々な地域の地 域性を多面的・多角的に考察し、比較・関連付けることにより地域を地誌的にとらえる視点や方法 を身に付ける。 ・日本が抱える地理的な課題を考察し、その課題 を多面的かつ多角的に探究する。 ・演習問題に取り組むことで、総合的な力を養う。	○	○	○	○	
	3 学 期	分野別総合問題演習	・マーク式問題に取り組むことで、総合的な力を養う。	○	○	○	○	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①	②	③	④
人々の生活の営みに関心を持ち、私たちの身近にある生活課題と結びつけながら、自己と自然や社会・文化など、私たちを取り巻く環境との関わりを探究しようとする。	さまざまな地理的事象を貫く法則性や特殊性を 考察し、それらを自然環境や社会環境との関係 において多面的・多角的に捉え、その考察の過程や結果を適切に表現している。	地理的事象に関する諸資料を収集し、それらを多角的・多面的に分析・判断し、合理的に判断を下し、効果的に活用している。	我が国及び世界の国々や人々の生活・文化の地域的特色について、法則性や特殊性を把握するとともに、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法			
学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「地理的な 見方や考え方」、「地理的な技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物（レポートやノート）」により 評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	公民	科 目	倫理	学 年	3	類 型	Ⅱ 類型
単位数	2 単位	教科書	高等学校 倫理		出版社	第一学習社	
副教材	・ 倫理ワークブック（愛媛県高教研地歴公民部会公民部門編） ・ 最新倫理資料集テオーリア（第一学習社）						

学習の目標	人間尊重の精神に基づき、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深め、良識ある公民として必要な能力と態度を育てます。
授業の概要	人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促すために求められる知識と考察及び判断の視点について系統的に学習する科目です。

	学期	単元	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年間 学習 計画	1 学期	青年期の課題と自己形成	1 よく生きることを求めて 2 青年期	◎ ◎	○ ○	 ○	○	
		人間としての自覚	1 ギリシャの思想	○	◎			
			2 キリスト教	○	○		◎	
			3 イスラーム	○	○		◎	
			4 仏教	○	○		◎	
	5 中国の思想	○	◎		○			
	2 学期	国際社会に生きる日本人としての自覚	1 日本の風土と伝統 2 外来思想の受容 3 町人意識の目覚めと庶民思想 4 西洋思想との出会い	◎ ◎ ◎ ◎	○ ○ ◎ ◎	◎ ○	○ ◎ ○ ○	
			現代に生きる人間の倫理	1 人間の尊厳		○	○	◎
		2 近代の科学革命と自然観		○	○		◎	
		3 自由で平等な社会の実現		◎	○			
4 人間性の回復と主体性の確立				○		◎		
3 学期		5 現代の思想と人間像	◎	○		○		
		6 生命への畏敬と社会参加	◎		○			
	現代の諸課題と倫理	1 生命倫理／環境／家族・地域社会 2 情報社会／宗教・文化／国際平和と人類の福祉	◎ ◎	○ ○		○ ○		

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①	②	③	④
人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。
評価の方法			
学習状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用 of 技能」「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、「出席状況」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「提出物（レポートやノート）」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	地理歴史	科 目	郷土研究	学 年	3	類型	I 類型
単位数	2 単位	教科書	「歴史探訪！！大洲高校」		出版社	大洲高等学校地歴・公民科	
副教材							

学習の目標	本校の歴史や本校の所有文化財を「教材」として、身近な地域の歴史や風土に多角的にアプローチすることにより、生徒の歴史認識を深めさせるとともに、文化財保護の重要性に気付かせます。
授業の概要	古代～近世の愛媛県や大洲市の歴史について主題を設定して学習する。また、グループによるプレゼン発表や臨地学習を行うことにより、その内容の深化を図ります。本校所蔵資料を「モノ教材」として教材化し、資料の読解や、その資料が形成された時代背景を調べることにより、歴史的思考力の育成を図るとともに、文化財を保護する意識や地域に貢献する態度を身に付けます。

	学 期	単 元	学 習 内 容	評価の観点				
				①	②	③	④	
年 間 学 習 計 画	1 学 期	1 愛媛・大洲の歴史 2 愛媛・大洲の風土	1 古代 2 中世 3 近世 4 臨地学習 1 愛媛・大洲の地理 2 愛媛・大洲の産業 3 愛媛・大洲の民俗 4 臨地学習	○ ○	○	○	○ ○ ○	
	2 学 期	3 大洲高校の歴史	1 大洲近代教育の芽生え 2 愛媛県立大洲中学校の創立 3 至徳堂の落成 4 大洲高等学校の発足		○ ○	○ ○	○	
	3 学 期	4 所蔵資料から学ぶ歴史	1 日本史関連資料 2 世界史関連資料				○ ○	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①	②	③	④
大洲地域の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、地域主権者としての責任を果たそうとする。	大洲地域の歴史の展開から課題を見だし、地理的環境や産業と関連付けて多面的・多角的に考察し地域の文化と伝統の特色について認識を深め、その認識を適切に表現している。	大洲地域の歴史の展開に関する諸資料や本校所有文化財から有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	大洲地域の歴史の展開についての基本的な事柄を、地理的環境や産業と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法			
学習状況は、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「資料活用 of 技能」「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、「出席状況」、「授業態度・取り組み方」、「グループごとの調べ学習」、「学習成果報告（レポート・およびプレゼン）」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。			